



…ドクター内田のひとりごと…

思いつくまま 58
気のむくまま



出たところ勝負

新年あけたかと思ったら、あっという間に2月ですね。皆様いかがお過ごしですか？

まずは、先日のある診察での話。90代のおばあさんがお孫さんと一緒にいつもの外来にやってきました。話が盛り上がっているさなか病棟の看護師さんから私に電話がかかってきました。30秒ほどやり取りをした後、外来の診察(雑談ともいう)にもどって、「さて何の話でしたっけ?」と尋ねたところ、患者さんもお孫さんも「なんでしたっけ?」と…。結局だれもその時の話題を思い出せずまあいっか、なんて笑いながらその診察を終えたことでした。

さて、久しぶりの登場となります、高知のあやこさんの話です。昨年末あやこさんから荷物が届きました。懐かしい写真や高知新聞の記事、高知にまつわる品々の中に、小冊子「^{めすはら}梲原文芸史談」(梲原町文化協会発行)が入っていました。私が小鹿野に来る前に勤務していた高知県梲原町の方々が寄稿して毎年作られている文集です。その中で、あやこさんが幼少期の話を綴っていました。母のふえさんから、いただき物があったときはまず仏さまにお供えする事と言い聞かせられていたあやこさん。ある日親戚のおばさんからいただいたきれいな箱を丁寧に仏壇に供え、仕事から戻ってきたのふえさんに報告します。のふえさんがその箱を開けてみると、なんと下駄が入っていたとのこと。「仏さまも食べ物ではなく履物をお供えされ、笑ったことじゃろう」と笑顔で慰めてくれたとのことでした。そんないただき物のお供え習慣は今でも続いているとか。謙虚な気持ちに感心するとともに、もらい物にすぐに手を出してしまいたくなる自分に反省…。

話はかわって、今日は「出たところ勝負」の話です。私はこの「出たところ勝負」というのが結構好きです。以前勤務していたホスピスでは、人生の最終段階で起こりうる症状に対応するため、いろんな準備をします。体の症状だけではなく、心理的な変化、周囲の協力など、あらゆる状況を想定し整えるのです。それでも「こんなことが起きたらどうしますかね…」という、どうしようもない最悪の事態を想定せざるを得ないこともあります。そんなとき、「あとは、出たところ勝負でしょう」と誰かが言うのです。その時になって考える。その言葉にどれだけ救われたか。

準備を整えて、それでも想定外のことが起きたら「出たところ勝負」です。逆に準備も何もしていなければ、単なる準備不足や行き当たりばったりです。

考えてみれば私たちの人生も、結構「出たところ勝負」なんですよね。学校のテスト、仕事上の出来事、家族内の問題、時にはちょっとした買い物の中でさえ、あちこちで「出たところ勝負」してますよね。

最善のものを希望せよ。しかし最悪のものに備えよ。

(西洋のことわざ)

外来中に話題を忘れても、箱から下駄が出てきても、身の回りで起こるあらゆることに、あとは「出たところ勝負」でこの1カ月経過してみます。もちろん、ある程度準備をして。

まだまだ寒さは続きそうです。コロナの流行からも目が離せません。それでも、今月もがんばりましょう。

院長 内田 望

外来からのお知らせ

最新の休診情報は、町立病院のホームページ「診療日カレンダー」でお知らせしています。
※休日急患当番医は次ページをご覧ください。

休診

2月11日(祝)、23日(祝) 休診日

発熱外来

発熱や咳など呼吸器症状等のある人は、平日午後2時から4時までの間、発熱外来で対応します。必ず、事前にお電話(☎75-2332)いただき受診方法をご確認ください。

〈お子さんをお持ちの人へ〉

小児については、小児科医による診察が望ましく、かかりつけ小児医療機関や埼玉県新型コロナウイルス感染症県民サポートセンター☎0570-783-770(24時間対応)に電話などでご相談ください。